

令和3年度事業報告書

事業所名：特別養護老人ホーム 彦岳の太陽

《 実施目標 及び 実施状況と今後の課題 》

- 1. 施設全体の組織強化を図るため、施設長が直接介護現場に入り新人教育及びリーダー、中堅職員とのカンファレンスを共に行ながら人材の育成に努める。**
 - ・ 昨年も引き続き新型コロナウイルス感染発症の関連対応より、思ったように介護現場へ入れなかったが、定期の各フロアカンファレンスや介護係長、各リーダーとのミーティングを適時に行い、介護現場の状況把握や業務改善、新人指導と育成へ努めてきた。
- 2. 職員教育として、感染拡大防止への対応、重度化への対応、認知症への対応、胃ろう吸引への対応等について看護師、専門職員との連携により介護人材の資質・技術の向上に力を入れる。**
 - ・ 新型コロナウイルス感染予防のため、月末に開いてきた全体会議も中止とし、伝達事項や必須項目研修なども回覧制へ変更し行った。また、医療ニーズの増大（重度化）への対応のため、新人職員を含めた胃ろう吸引の資格取得、取得者フォローアップにも取り組んできた。外部研修においては、Web研修を取り入れることで参加の機会を設けてきた。
- 3. 利用者本位の視点で計画された施設サービス計画により、利用者のご家族の意向を尊重し、その人らしい生活を送れる様な計画を作成する。特にユニットフロアに於いては各利用者の24時間シートに沿った生活パターンを基に統一されたユニットケアに努める。**
 - ・ 施設サービス計画は、利用者様とご家族の意向を尊重したプラン作成を行い、家族の参加が難しい場合には電話で意向の確認や、リモートでの参加を呼び掛けるなどの対応を行った。
ユニットケアにおいては24時間シート作成の3カ月毎の見直しを行い、個別対応での統一ケアを実施してきた。また、関連病院の作業療法士と連携して生活機能向上訓練計画を作成するなど、利用者様が安心して施設生活を送れるような計画作成をしてきた。

4. 地域との繋がりを大事にし、地域との情報交換、交流を深め、時に発信者となり地域に信頼される施設を目指す。

昨年度も、新型コロナの状況下、感染防止の観点より面会制限、地域行事、慰問禁止等の対応を取ってきた。地域を支える人材確保のための介護実習生の受け入れは感染対策を行ったうえで行ってきた。地域との交流を深めるための講演会については、コロナの影響で延期となっているが、今年度は秋の開催を目指していきたい。

5. 利用者主体の業務改善を行い、効率化を図ることで、柔軟な対応、健全な運営を行う。

- ・ 業務改善については、個々の24時間シートを作成、日常生活機能訓練計画と合わせたケアプランを作る事により、より個別対応で統一ケアが実施出来る様取り組み実践している。

6. 他事業所との連携により支援体制の強化、利用率の向上を図る。

- ・ 佐伯中央病院を中心に関連施設と連携し、入院中のフォローや退院後のスムーズな受入れを地域医療連携室と行ってきた。鶴見の太陽においても、特養を希望する入所者の受入れを行うなど連携を行った。佐伯の太陽においても、居宅介護支援事業所をはじめグループホームや総合サービスと連携を図ってきた。新規利用者、医療の必要な方には、佐伯中央病院や彦陽クリニックとの連携を図り、早期に対応することで疾病の悪化を防止することができた。